

## 令和4年度(2022年度)総務常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和4年(2022年)11月21日(月)
- 2 視察者 総務常任委員会(7名)  
高島和男(委員長)、坂梨剛昭(副委員長)、松田三郎、  
西 聖一、山口 裕、濱田大造、吉田孝平
- 3 視察の概要

### (1) リンクスパーク LINKSPARK フクオカ FUKUOKA (場所: NTT 西日本熊本支店)

LINKSPARK FUKUOKA はDX推進に当たって、NTT西日本が新たな出会いや刺激を生み出す共創の場として設置しているショールームである。先進技術に触れ、体験することができるデモンストレーションスペースや交流の場としてのカフェやワークスペース、ラボスペース等を設置し、NTT西日本のスタッフなどがDX実現のための支援体制を構築している。

今回の視察では、NTT西日本熊本支店1階エントランスの壁面映写装置を活用し、福岡市にあるLINKSPARK FUKUOKA とオンラインでつなぎ、LINKSPARK の取組や共創によって生まれた事例の説明を受けるなどDX推進の動向について説明を受けた。

NTT西日本熊本支店及びLINKSPARK FUKUOKA から、DXとは経営や事業の在り方を変えることが目的であり、デジタルという要素を使って課題を解決することであるとの説明があった。



### (2) 三里木駅、原水駅、肥後大津駅(空港アクセス鉄道関連)

空港アクセス鉄道については、空港周辺地域にTSMCの進出が決定し、今後、更なる企業集積を含め人やモノの流れに大きな変化が想定されることを踏まえ、三里木、原水、肥後大津の3つのルート案で調査・検討が行われてきた。

今回の視察では、令和4年9月定例会において中間的な調査概要等が報告された3つのルートの分岐駅である各駅の現状等に加え、肥後大津駅から運行している空港ライナーについても説明を受けた。

執行部から、3駅の乗車人数等の現状及び各ルートの検討状況について説明があった。



### (3) 阿蘇くまもと空港

阿蘇くまもと空港は、令和2年4月、熊本国際空港株式会社による滑走路や駐機場、駐車場などを含む空港運営事業が開始され、同年4月7日、国内線別棟ビルが供用開始された。令和3年1月15日、創造的復興のシンボルである空港の新旅客ターミナルビル建設工事に着手しており、令和5年3月23日に開業予定である。

今回の視察では、空港の運営状況及び新旅客ターミナルビル工事の進捗状況等について説明を受けた。

熊本国際空港株式会社から、同社のマスタープランに基づき、世界と地域に開かれた九州セントラルゲートウェイとして、また創造的復興のシンボルとして、国内線、国際線一体型の新旅客ターミナルビルを予定どおり共用開始したいとの説明があった。

